

## 【大阪】「医療と劇場とAIと」2病院合併移転で新医療複合施設が2023秋オープン-谷美智子・医誠会国際総合病院医師・経営学修士に聞く◆Vol.1

2023年6月2日（金）配信 m3.com地域版

医療法人医誠会は2023年10月、「医療と劇場とAIと」をコンセプトに、先進医療を備えた医誠会国際総合病院（大阪市北区・560床）と文化施設を加えた医療複合施設i-Mall（アイモール）を開院する。2025年の大阪・関西万博を控え、国際化が進む大阪で求められる医療について、同院の医師で経営学修士でもある経営戦略企画室長の谷美智子氏に聞いた。（2023年4月17日インタビュー、計2回連載の1回目）

▼第2回は[こちら](#)（近日公開）



医誠会国際総合病院・谷美智子氏

### — 医誠会国際総合病院はどのような特徴を持つ医療機関ですか。 —

大阪都心で高度先進医療が受けられる、国際健康医療ツーリズムにも対応した総合病院です。最大の特徴は、一つの総合病院でありながら医療複合施設i-Mallの中核施設になっている点です。

i-Mallは「医療と劇場とAIと」をコンセプトに健康文化とアート、ダイバーシティや生物多様性を実現・発信する医療複合施設であり、医誠会国際総合病院はその中で医療分野を担う中核施設にあたります。先進先制医療に注力し、日本を訪れる外国人患者さんを積極的に受け入れるほか、需要が多様化する大阪市内とその周辺地域の高度急性期医療を支える環境づくりにも貢献したいと考えています。また、GMPグレード（製造管理・品質管理基準）に準拠した210坪の細胞培養加工施設を併設しており、がん治療、がん免疫細胞治療、個別化医療、再生医療、ゲノム医療などにも取り組みます。

i-Mallを構成する施設は、劇場や異文化交流カフェ、24時間フィットネスジムやバイリンガル保育園、病児・病後児保育園があり、医誠会国際総合病院の患者さんだけでなく職員にとっても働きやすい環境を整えています。

生物多様性への取り組みとして、院内緑化をはじめ、病院の周りを取り囲むように120本の桜を植えました。多様な植栽を通して隣接する野崎公園や扇町公園へつながる都市の緑化も推進します。また、病院の屋上では「医誠会ハニー」として都市養蜂を開始します。i-Mallが季節の移ろいや自然の恵みを感じられる異文化交流の場として、新たな健康文化の発信基地となることを目指しています。



医誠会国際総合病院

### ——医誠会国際総合病院は新設病院ですか。

医誠会国際総合病院（560床）は、医誠会病院（327床）と城東中央病院（233床）の合併移転による新規開設という形で申請し、認可されました。

### ——注力している分野や、特徴的な取り組みは。

AIの活用と、最新の高度先進医療設備による低侵襲での医療です。医療DXとはAIや電子カルテシステムなどのデジタル技術を通じて、患者さんのニーズに沿った質の高い医療を効率的に提供することを指します。医誠会国際総合病院では、AIを導入して活用することで、医療DXを推進していきたいと考えています。

具体的には医療プラットフォームに患者データを構築し、AIでビッグデータを解析します。ビッグデータにはゲノム解析データ、放射線の画像データが含まれますが、このデータを利用して高度診断と治療を行う診療システムの確立へとつなげていきます。そのほか投薬管理や調剤支援にもAI搭載の薬剤管理システムを多数導入し、医療従事者の業務軽減に取り組んでいます。

また、高度先進医療機器を駆使し、早期社会復帰が期待できる治療を積極的に行っていきます。これまでの治療では回復までに時間を要するような症状や、身体にメスを入れる従来の手術が難しい状態の患者さんにも、治療や手術を受けていただくことができます。内視鏡や腹腔鏡手術はもちろん、血管内治療やダビンチなどを使ったロボット手術も行います。

医療DXの最大の問題点は、多くの高度に発展した医療機器があるにもかかわらず、それぞれの医療機器が連携しないことだと考えています。医誠会国際総合病院では、ダビンチをはじめ多くの最先端医療機器やAIを導入するだけでなく、病院が主体となってビッグデータの構築や機器の効率的連携を行い、最善最適の医療を提供することを目標にしています。

### ——2025年開催の大阪・関西万博に向けて医療ツーリズムへの期待も高まります。医誠会国際総合病院ならではの工夫はありますか。

医誠会国際総合病院は大阪市の民間総合病院で唯一、大阪・関西万博の共創パートナーに認定されています。そのため外国人患者さんにも安心して医療を受けていただけるように、国際診療部を立ち上げました。今でも大阪は世界中から多種多様な人々が訪れ、生活する都市です。日本の高度先進医療設備や技術は世界的に高い評価を受け注目されていることから、大阪・関西万博に向けて外国人患者さんの受け入れにもさらに積極的に取り組んでいます。

当法人は2017年より海外から透析患者さんを受け入れており、2019年には台湾、アメリカ、インドネシア、シンガポール、中国、フィリピン、香港、マレーシア、タイから計55人が透析治療を受けています。新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が収束した今後は、大阪・関西万博に向けて訪日外国人の増加が見込まれます。

また、患者さんが慣れない院内で困ることが無いよう、病室や検査室のレイアウトにも工夫を凝らしています。医誠会国際総合病院は1つのエリア内で検査から治療まで受けられる1ルート完結型の構造です。これは理事長の提唱す

る医誠会スピリッツである「パシエント・ファースト」つまり「病院では患者さんが中心であるべき。患者さんが動くのではなく、医療者が動くべきだ」という考え方に基づいています。



3階受付周辺



3階受付 日本初のホスピーサイネージを導入

### ——医誠会国際総合病院が考える「パシエント・ファースト」とは。

患者さんの視点や立場に寄り添った医療を提供することです。従来の病院は、医療従事者が中心となったレイアウトが多く、診察室から検査室間の移動では患者さんに大きく負担がかかっていました。そこで医誠会国際総合病院では、診察から検査、治療が1つのエリアで受けられる仕組みにしようと考えました。医療従事者が患者さんの病室や診察室を訪れて対応する訪室型を採用し、CTは3台、MRIは4台など医療機器をすべてのエリアに配置することで、1つのエリア内で医療が完結するレイアウトデザインにしています。救急を受診される方、予約して受診される方、入院中に急変した方、患者さんそれぞれの状況に合わせて検査することができて、すぐに治療を受けられることを重要視しています。

検査機器を院内の多数のエリアに複数台設置している医療機関は多くないでしょう。医誠会国際総合病院では医誠会スピリッツの実現のために、患者さんにとって最も良い治療環境を提供すべく、検査機器の複数台導入を考慮し、あらかじめ設置スペースと電源を確保して院内設計を進めました。

救急病棟では、救急フロア内に空きベッドを確保しておくことで、病棟内の空き病室の確認をしなくても、常時救急の患者さんを受け入れることができるようになりました。これは、患者さんのスムーズな受け入れと治療開始にとって重要なことであるのももちろんですが、職員にとっても業務効率化の一助になります。

### ——地域医療には、どのように貢献できそうですか。

医誠会国際総合病院では、国際化が進む大阪市の救急医療にも貢献したいと考えています。現在、医誠会病院は大阪府で救急搬送の受け入れ実績数第1位です。医誠会国際総合病院では診療科の拡充に伴い、よりたくさんの患者さんを受け入れて地域の救急医療システムに貢献していきたいと思っています。また常時、多言語対応スタッフや医療通訳が勤務しており、外国人患者さんの受け入れにも積極的に取り組んでいます。

医誠会国際総合病院は複合施設も備えているため、病院だけではできない劇場やバイリンガル保育園とコラボレーションした公開講座など、地域の方に医療をより身近に感じていただけるような企画も実施します。最新の医療設備が充実しており、高度救急医療にも対応可能です。高度先進医療技術をもって地域の医療体制の向上にも貢献できると計画しています。

#### ◆谷 美智子（たに・みちこ）氏

2019年に昭和大学医学部を卒業。初期研修終了後、ホロニクスグループ医療法人医誠会経営戦略企画室に入職し、2023年に経営学修士課程を修了。2023年10月に開院するi-Mall「医誠会国際総合病院」のプロジェクトリーダーを務める。

【取材・文＝伏屋じゅん子（ライトスタッフ）、写真は病院提供】

#### → 大阪府に関する他のニュースを見る

三重県

滋賀県

京都府

大阪府

兵庫県

奈良県

和歌山県

#### 大阪府に関連するニュース

コロナ検査で水増し請求 大阪、補助金4.2億円不交付

6月6日

常勤医が酒酔い診察の疑い 国会議員らが大阪入管にヒアリング

6月3日

【関医大】乳腺外科学講座の担当教授を公募

6月3日

【関医大】小児外科学講座の担当教授を公募

6月3日

【関医大】下部消化管・一般外科学講座の教授を公募

6月3日

記事検索

ニュース・医療維新を検索

